

天然ニホンウナギ資源管理研究

(予算区分 受託 研究期間 平成 27~30 年度)

担当：浜名湖分場 鈴木基生

【研究の背景とねらい】

- ・ ニホンウナギ（以下、ウナギ）は、平成 26 年 6 月に国際自然保護連合が絶滅危惧種に指定するなど資源の減少が危惧されていますが、天然ウナギについては生態など基礎的な情報が少ないのが現状です。
- ・ 河川に遡上せず一生を海域で過ごす「海ウナギ」は、ウナギの再生産に大きく寄与している可能性が指摘されており、その生息状況や生態は解明すべき課題です。
- ・ 当场では、水産庁の「河川及び海域での鰻来遊・生息調査事業」に参画し、最下流部に浜名湖という海域を有する都田川水系をフィールドとして、海域に生息するウナギを主体に生態や漁獲実態など基礎的な知見の蓄積を進めました。

【研究成果】

- ・ 成長期のウナギの分布をみると、河川下流域がウナギの初期成育及び雄の生息場所であるのに対し、海域（浜名湖）は雌の生息場所であり、水域によって役割が異なることが明らかになりました（図 1）。
- ・ 浜名湖では秋季に産卵に向かう親ウナギ（銀ウナギ）は専ら小型定置網で漁獲されることが分かりました（図 2）。

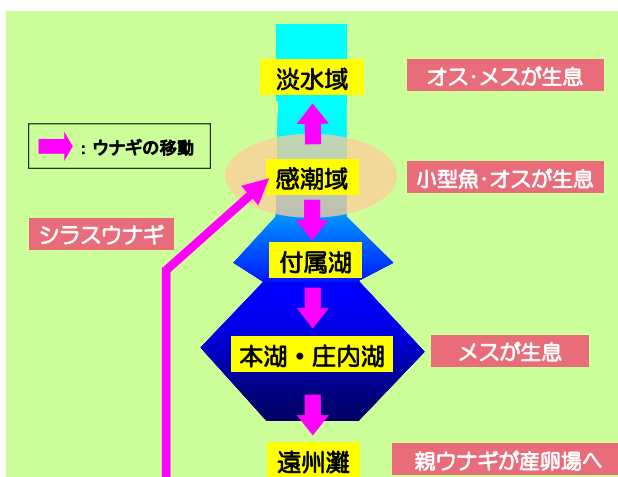


図 1 浜名湖におけるウナギの生息場所の移動

【研究成果の普及方法】

- ・ 漁業者やウナギ養殖業者などを対象とした研修会を開催し、資源保護や環境保全等の重要性を伝えていきます。

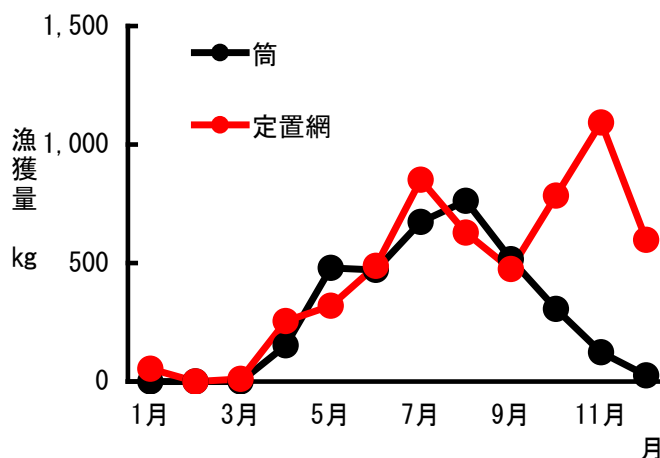


図 2 浜名湖における漁法別ウナギ漁獲量の推移

(作成 平成 31 年 3 月)